

太宰府の文化財

433

「吉嗣家の印箋」

皆さんは「印箋」をご存じでしょうか。便箋、付箋などは一般的に使用する言葉ですが、「箋」には目印やメモのための紙、手紙、文書といった意味があり、印箋とは印を押し、その印章の情報を記した紙を指します。

江戸後期から昭和にかけて太宰府在住の絵師、文人として活躍した吉嗣家にはこの印箋が70点ほど見つかっています。印章を制作した篆刻家その証明に印箋を作成していたようで、多くは詩書画の道で活躍した吉嗣拝山とその息子鼓山に宛てたものと思われる。

印箋を見ると、その多くは縦15cm、横10cmほどの大きさで、罫線の中に作成した印章を押し、その印文を記しています。さらに制作年月と自身の名前や号、誰に宛てて作ったものかを記しています。また、枠線にあたる罫線には、笹を連想させるものや、雷文という中国で使用される幾何学模様など、多様な文様があしらわれており、当時の人々の美的感覚を伺うこと

もできます。

吉嗣家に多くの印章が遺っていることは太宰府の文化財421号（広報だざいふ令和2年6月1日号）で紹介しましたが、その多くは作者や制作年代が分からないものでした。しかし、印箋に記された内容を組み合わせることで、印章本体からは知ることのできないさまざまな付随情報を知り得ることができそうです。明治期の文人吉嗣拝山や息子の鼓山がどういった人物と交流し画業を営んでいたのか、その一端を明らかにする資料といえるでしょう。

なお、6月5日(土)から開催される太宰府の絵師展「秋圃と拝山―太宰府に偉才あり―」では今回ご紹介した印箋をはじめ、吉嗣家に伝わる作品や資料、江戸後期から活躍した町絵師齋藤秋圃・梅圃の作品と資料を展示します。ぜひご覧ください。

(文化財課 木村 純也)

お知らせ

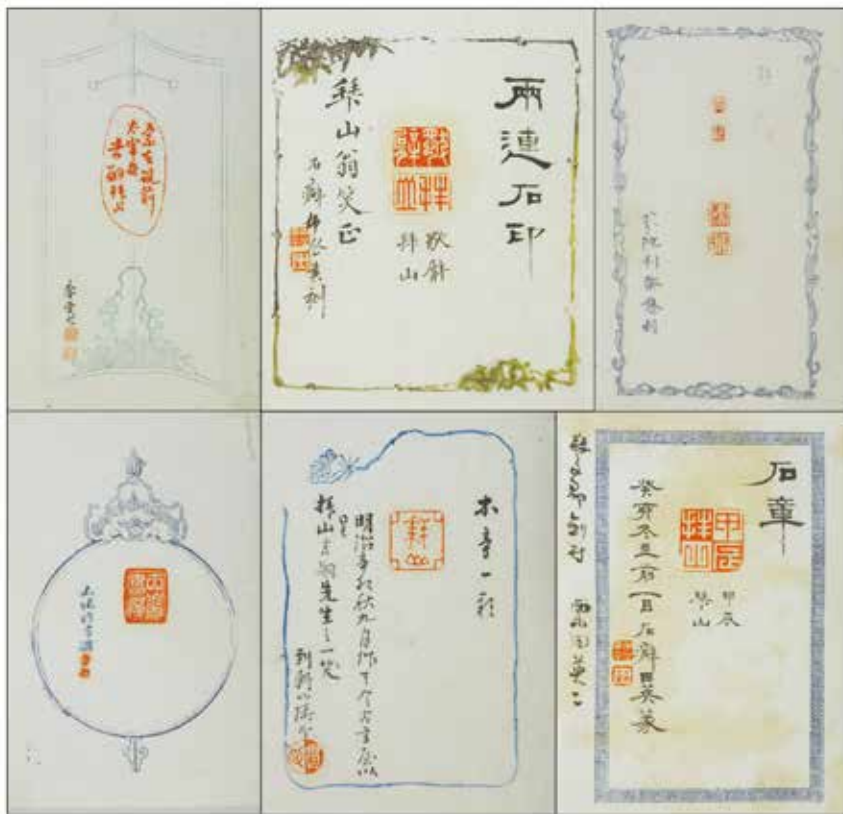
■太宰府の絵師展「秋圃と拝山―太宰府に偉才あり―」を開催します。

会期 6月5日(土)～7月18日(日) 月曜休館

会場 太宰府市文化ふれあい館 1階多目的展示室 ※観覧無料

問い合わせ 文化財課(☎内線477)

◎新型コロナウイルス感染症の状況により、開催期間変更の場合があります。ご了承ください。



吉嗣家に伝わる印箋

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198
☎092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☒ keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

太宰府市公式SNSの
フォローをお願いします！

